

平成 30 年度 上越市環境政策審議会 第 1 回環境マネジメントシステム部会

日時：平成 30 年 11 月 29 日(木)

午前 11 時～

場所：上越文化会館 中会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

1 報告事項

(1) 平成 30 年度環境目標達成状況（第 2 四半期まで）

…資料 1

(2) 平成 30 年度法規制遵守状況（第 2 四半期まで）

…資料 2

(3) 平成 30 年度環境目的目標の見直しについて

…資料 3

2 その他

4 閉 会

平成 30 年度環境目標達成状況（第 2 四半期まで）

1 環境目標達成状況

環境目標全 17 項目のうち、

第 1 四半期（4 月、5 月、6 月）、達成 9 項目、未達成 1 項目、期別目標なし 7 項目第 2 四半期（7 月、8 月、9 月）、達成 11 項目、未達成 2 項目、期別目標なし 4 項目

環境目標の項目	年度目標	第 1 四半期	第 2 四半期	
1 地球環境				
1 省エネルギーの推進				
①省エネ法管理対象施設（173 施設）のエネルギー使用量の削減割合	基準値 15,862kl H24～H26 のエネルギー使用量がいずれも 15kl 以上ある施設の 3 カ年平均値	-	目標 6,701kl	
	目標値 15,228kl (対基準値比▲4%) 目標値は平成 27 年度から毎年基準値比▲1%とし、平成 30 年度は▲4%と設定	-	実績 5,920kl 【達成】	
②温室効果ガス排出量（前年度）	68.2 千 t-CO2	-	-	
③ノーカーデー（月 2 回以上）実施職員の割合及び二酸化炭素削減量	実施職員の割合 100.0%	目標		
		実施職員の割合	100.0%	実施職員の割合
	二酸化炭素削減量 60t-CO2	実績		
		実施職員の割合	114.2% 【達成】	実施職員の割合
二酸化炭素削減量	16.9t-CO2 【達成】	二酸化炭素削減量	17.4t-CO2 【達成】	
④グリーン購入不適合品目数	0 品目	目標 0 品目		
		実績 0 品目 【達成】		
2 再生可能エネルギーの導入				
①風力発電施設 3 基による発電量	1,090,000 kWh/年以上	目標 230,000kWh	目標 330,000kWh	
		実績 135,721kWh 【未達成】	実績 217,750kWh 【未達成】	
②消化ガス発電の発電量	1,248,000 kWh/年以上	目標 312,000kWh	目標 624,000kWh	
		実績 378,998kWh 【達成】	実績 741,889kWh 【達成】	

環境目標の項目	年度目標	第1四半期	第2四半期	
1 地球環境				
3 地産地消の推進				
①学校給食において使用量の多い青果物5品目の地場産(上越市産)使用割合	年度末までに12.0%	-	目標 12.0%	
		-	実績 18.6% 【達成】	
②地産地消の推進店の認定数	年度末までに160店	-	-	
2 自然環境				
1 生物多様性の保全				
①自然環境保全条例による保全地域指定か所数	※次年度以降の指定に向け、関係者に事前相談を行う。	-	目標 候補地域において自然観察ツアーを開催する。	
		-	実績 未実施 【未達成】	
3 生活環境				
1 水質保全・排水処理対策の推進				
①汚水衛生処理率	84.6%	目標 84.2%	目標 84.3%	
		実績 84.2% 【達成】	実績 84.3% 【達成】	
2 ごみの適正処理の推進				
①市内の家庭系及び事業系ごみの排出量	家庭系	46,600t	-	-
	事業系	20,900t	-	-
3 環境美化の推進				
①全市クリーン活動への参加者数	60,000人	目標 22,000人	目標 42,000人	
		実績 27,242人 【達成】	実績 48,374人 【達成】	
4 環境学習				
1 環境学習の推進				
①環境学習講座の参加者数(環境保全課)	5,600人	目標 1,250人	目標 3,080人	
		実績 2,047人 【達成】	実績 3,622人 【達成】	

環境目標の項目	年度目標	第1四半期	第2四半期
4 環境学習			
1 環境学習の推進			
②環境学習講座の参加者数 (生活環境課)	1,250人	目標 0人	目標 470人
		実績 553人 【達成】	実績 1,670人 【達成】
③環境学習講座の参加者数 (農林水産整備課)	5,820人	目標 1,960人	目標 4,140人
		実績 2,530人 【達成】	実績 4,581人 【達成】
④環境学習講座の参加者数 (社会教育課)	322人	目標 73人	目標 249人
		実績 110人 【達成】	実績 294人 【達成】
⑤環境学習講座の参加者数 (水族博物館)	-	-	-

2 未達成項目の状況

未達成項目	達成状況		理由	是正内容と今後の見通し
風力発電施設3基による発電量 (環境保全課)	1期	×	不具合により風力発電施設2号機が2月から停止しているほか、落雷被害によりうみてらす名立風力発電施設が4月下旬から8月末まで停止していたため。	風力発電施設2号機は、多額の修繕費を投資したとしても採算が合わないため、復旧せずに年度末まで停止状態を維持する予定。それに伴い、第3四半期から発電量の目標値を変更する。
	2期	×		
自然環境保全条例による保全地域指定か所数 (環境保全課)	1期	○	当初予定していた候補地(頸北の湖沼群)における自然観察ツアーのテーマを渡り鳥としたことから、渡り鳥が飛来する12月に開催することとしたため。	12月に候補地域の観察ツアーを実施することとし、事前準備を行う。
	2期	×		

平成 30 年度法規制遵守状況（第 2 四半期まで）

1 法規制監視測定件数

測定数 1,139 件のうち、適合 1,135 件、法基準値不適合 0 件、自主基準値不適合 4 件

法令の名称	適用項目	対象施設等		測定数	適合数	法 基準値 不適合	自主 基準値 不適合
		名称	数				
廃棄物処理法ほか	浸出水、地下水	一般廃棄物最終処分場 (薬師山埋立地 ほか)	4	24	23	0	1
廃棄物処理法	汚泥、焼却灰及びばいじん	一般及び産業廃棄物 (上越市クリーンセンターほか)	11	48	48	0	0
大気汚染防止法	ばい煙	廃棄物焼却炉、ボイラー (上越市クリーンセンターほか)	13	8	8	0	0
悪臭防止法ほか	悪臭	悪臭原因物 (上越市クリーンセンター、汚泥リサイクルパーク)	2	1	1	0	0
騒音規制法ほか	騒音	圧縮機、ポンプ、送風機等 (柿崎コミュニティプラザ、雁木通りプラザほか)	73	59	59	0	0
振動規制法ほか	振動	圧縮機、ポンプ、送風機等 (教育プラザ、高田図書館ほか)	41	28	28	0	0
水質汚濁防止法ほか	排水	排水処理施設 (下水道センター、農業集落排水処理施設ほか)	56	313	311	0	2
下水道法	排水	下水処理施設 (下水道センター、浄化センター)	7	42	41	0	1
労働安全衛生法	ダイオキシン類	廃棄物焼却炉 (上越市クリーンセンター)	1	2	2	0	0
肥料取締法	有害物質	汚泥肥料 (汚泥リサイクルパーク)	1	2	2	0	0
県公衆浴場の配置、衛生措置の基準条例	水質	浴槽水 (ユートピアくびき希望館、八千浦交流館はまぐみ)	2	9	9	0	0
フロン排出抑制法	第 1 種特定製品	エアコン等	298	603	603	0	0
計			509	1,139	1,135	0	4

2 未達成項目及び理由等

法令等の名称	施設名	月	不適合の状況	是正措置・再発防止策の状況
水質汚濁防止法	上越市 下水道セン ター	5	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 上越市下水道センターの放流水の大腸菌群数が JMS 自主基準値の 1,500 個/cm³ を超過して 2,600 個/cm³ が検出された。 <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 放流水の質及び量に対して、次亜塩素酸ナトリウムの注入量が足りていなかったため。 	<p>是正措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主基準値超過を確認した段階で、次亜塩素酸ナトリウムの注入施設を点検し、放流水で残留塩素濃度が 0.11mg/L であることを確認した。 放流水を採水し、大腸菌群数の試験を行った。結果は 0 個/cm³ であり、自主基準値超過がないことを確認した。 6 月 4 日に再度測定し、残留塩素濃度 0.10mg/L、大腸菌群数 0 個/cm³ であることを確認した。 <p>再発防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 次亜塩素酸ナトリウムの注入量は一日当たり 300kg 程度とし、流入の質及び量の変化等に合わせて最適量を把握する。 しばらくの間、残留塩素濃度は毎日午前午後の 2 回測定し、概ね 0.1mg/L 程度検出されることを確認する。 今後の施設改修等に合わせ、放流流量により次亜塩素酸ナトリウムの注入量を制御できる機器に変更することを検討する。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	柿崎区一般 廃棄物最終 処分場	8	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年 8 月 27 日（月）、柿崎区一般廃棄物最終処分場において水質検査を行ったところ、放流水の過マンガン酸カリウム消費量が JMS 自主基準の 10mg/l を超過して、26mg/l が検出された。 <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常は月末に採水を行ってきたが、8 月末は天候の悪い日が続き、採水当日も降雨の影響があり、現況を正しく分析できないおそれのある透視度の低いサンプルを採水せざるを得なかった。その結果、過マンガン酸カリウム消費量が基準値を超過したが、これは有機質分を多く含む土壌が放流水に多量に混入したものと推測される。 	<p>是正措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月の採水予定日を月末から中旬に移行し、天候の良い条件下で処分場の現況を正確に分析できるよう、日程を確保する。 <p>再発防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 採水後のサンプルに臭気や透視度が低いなど異常が見られる場合は、市の担当者が現物を直接確認するとともに、採水時の天候や月末までの天気予報も考慮し、当該サンプルを採用するか、新たに採水するかを判断する。 なお、サンプルの状態から月内の採水が困難な場合は、監督官庁（新潟県）に状況を報告の上、助言を仰ぎ対応する。

法令等の名称	施設名	月	不適合の状況	是正措置・再発防止策の状況
①水質汚濁防止法 ②下水道法	大瀉浄化センター	8	<p>状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年 8 月 21 日（火）、自主検査において 9 時 30 分に採水した放流水のノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱物油類及び動植物油脂類油脂類）が JMS 自主基準値の 1.5mg/L を超過して、2.8mg/L が検出された。 <p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去 10 年間に於いて、検出の事例がないことから明瞭な原因は不明であるが、採水時、放流水中に均一に存在しないノルマルヘキサン抽出物質として検出される何かが、採水ビンにスポットで入り込んだこと。 	<p>是正措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主基準値超過を受け、8 月 27 日（月）に再度ノルマルヘキサン抽出物質含有量の検査を行った。その際、検出されることを考慮して鉱物油類由来か動植物油脂類由来かを判断するため分別定量での試験を行った。 検査結果は鉱物油類、動植物油脂類ともに 0.5mg/L 未満となり、自主基準値超過がないことを確認した。 基準超過のあった 8 月 21 日当日を含め、大瀉浄化センターの下水処理は以前・以降ともに極めて順調に行われている。 <p>再発防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因は明確ではないものの、流入下水に油脂類が混入することは下水処理に悪影響を及ぼすものであることばかりでなく、下水管渠の閉塞にもつながることから適切なグリーストラップの選定及び運用について指導・啓発を行っている。 大瀉浄化センターにおいて良好な放流水質を確保するため、引き続き最適な運転管理に努める。

平成 30 年度環境目的目標の目標値の見直しについて

1 環境目的目標の見直し

JMS 環境目的目標において、JMS ハンドブックに基づき見直しを行う。

(1)見直し時期

年 1 回、上期の実績から下期の目標及び実施計画について見直しを行う。

(2)判断基準

見直しは、次の判断基準①から③のすべてを満たす場合に行う。

環境目的目標及び実施計画見直し判断基準	
①未達成が 2 期連続した場合	
②課等、部門及び部門間のいずれの調整手段でも解決できない場合	
③是正・予防処置による改善が困難と判断する場合	
→A：各月の目標値に±10%以上のかい離が生じた場合	
→B：もしくは年度目標値に±10%以上のかい離が見込まれる場合	

※JMS ハンドブック P14-15 抜粋

2 見直しを検討する環境目的目標

(1)判断基準に該当し、目標値の見直しが必要と判断した環境目的目標

基本目標	管理 No.	環境目的	環境目標 (単位: kWh)			
			第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
再生可能エネルギーの導入	1-2-①	風力発電施設 3 基による発電量を 1,090,000kWh/年以上にする。	230,000	330,000	680,000	1,090,000

(2)平成 30 年度第 2 四半期までの取組結果と第 3 四半期以降の見込み

項目	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期 (見込み)	第 4 四半期 (見込み)	判断基準
目標値 (kWh)	230,000	330,000	680,000	1,090,000	-
実績値 (kWh)	135,721	217,750	537,750*	810,000*	-
目標と実績とのかい離	約 41%	約 34%	約 21%	約 26%	③B
結果	未達成	未達成	未達成	未達成	①
今後の見通し	【2号機】 復旧せずに年度末まで停止状態を維持 【3号機】 通常運転 【うみてらす名立風力発電施設】 8月下旬に復旧見込み	【2号機】 同左 【3号機】 通常運転 【うみてらす名立風力発電施設】 8月下旬に復旧し稼働開始	停止中である風力発電施設 2 号機が多額の費用を投資して修繕を行っても採算が合わないため、復旧せずに停止状態を維持することから、年度当初に設定した 3 基分の発電量は見込めない。また、是正・予防処置による改善が困難である。		②

※3号機とうみてらす名立風力発電施設の過去 5 年間における発電実績の平均値を使用

3 環境目的目標見直し後の目標値

単位：kWh

環境目的	項目	環境目標			
		発電量			
		第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
当初 風力発電施設 3基による発電量 1,090,000kWh/年 以上にする。	目標値（累計）	230,000	330,000	680,000	1,090,000
	実績値（累計）	135,721	217,750		
	実績値（期別）	135,721	82,029		
	目標と実績の差	▲ 94,279	▲112,250		
見直し後 風力発電施設 2基による発電量 を810,000kWh/年 以上にする。	目標値（累計）			537,750	810,000
	目標値（期別）			320,000 [※]	272,250 [※]

※3号機とうみてらす名立風力発電施設の過去5年間における発電実績の平均値を使用

環境省補助事業「地方公共団体カーボン・マネジメント強化事業」を
活用した温室効果ガス削減取組の強化について

1 事業の目的

当市は、平成 27 年度に「上越市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、温室効果ガスの削減に向けた取組を推進している。

こうした中、国の地球温暖化対策計画（平成 28 年 5 月 13 日閣議決定）では、地方公共団体の公共施設を含む「業務その他部門」において、2030（平成 42）年度までに 2013（平成 25）年度比で 40%削減する目標を掲げたため、目標達成に向け、公共施設の省エネルギー診断調査を実施するとともに、既存の JMS 体制を整備・強化し、効果的かつ効果的な取組を推進する。

2 事業の進捗

時期	内容
H30 年 5 月～7 月	環境省事業 5/10 応募申請、7/4 採択
H30 年 8 月	8/27 業者選定会、8/30 事業者決定
H30 年 9 月	9/10 契約締結→事業開始（期間：H30. 9. 10～H31. 1. 31）
H30 年 11 月	11/7～11/9 モデル施設の省エネ診断
H30 年 12 月～H31 年 1 月	各種省エネ対策の検討及び推進体制の強化
H31 年 1 月	事業完了
H31 年度以降	施設の設備改修及び運用改善に活用

3 推進体制

上越市地球温暖化対策実行計画事務事業編の取組を推進

JMSによるマネジメントにより
温室効果ガス削減目標達成

基本方針	主な取組項目	直接的削減	間接的削減
		関与する課 施設及び車両の 所管課	関与する課 全課
1 再生可能エネルギー利用	①再生可能エネルギー導入	○	—
2 省エネルギー化	②省エネルギー化（施設・ 車両・事務機器運用等）	○	○
	③グリーン購入	—	○
	④車の利用	○	—
	⑤建物等の建築・管理	○	—
3 省資源・リサイクル	⑥水の使用	—	○
	⑦紙の使用	—	○
	⑧ごみ削減	—	○
4 フロン類の排出量抑制	⑨フロン類の管理	○	—
5 職員の意識向上	⑩研修・意識啓発	—	○

間接的削減（温室効果ガス排出量の削減に貢献するが、削減量の換算及び把握が困難なもの）
目標の例

- グリーン購入の遵守
- 定時退庁日の徹底
- OA 機器運用の省エネ対策
- ミスコピーの削減や資料の電子化による紙の省資源対策
- イベント開催時のごみの減量対策
- 各種通知文を活用した環境啓発メッセージの発信
- ノーカーダーの推進